厚木市観光振興計画改定の概要

1 計画改定の背景【本編P1】

「厚木市観光振興計画」は、平成24年3月に策定し、4年が経過しましたが、この間、観光をめぐる環境は大きく変化しています。

平成 25 年に訪日外国人旅行者が 1,000 万人を突破し、2020 年に東京オリンピック・パラリンピック開催が決まるなど、観光を巡る情勢は大きく変化しています。更に訪日外国人旅行者が今年(平成 28 年) 2,000 万人を突破するなど、観光先進国の実現に向けて政府一丸、官民一体となった取組が進められています。

ついては、本市の観光振興を取り巻く観光ニーズを始めとした環境変化に対応し、施策の実効性を確保するため、計画の改定作業を行います。

2 計画の目的【本編P1】

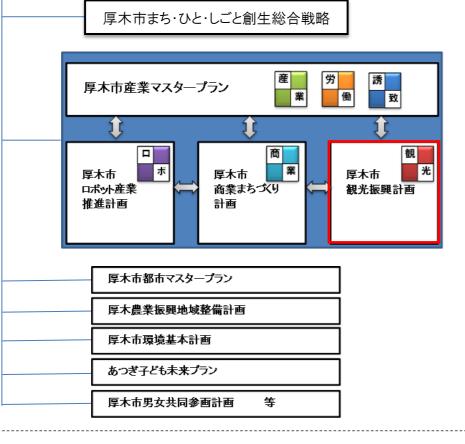
「厚木市観光振興計画」は、厚木市観光振興条例に基づき、本市を取り巻く環境変化や観光ニーズを的確に捉え、実効性の高い観光振興施策を推進することを目的とします。

3 計画の位置付け【本編P2】

第9次厚木市総合計画「あつぎ元気プラン」

「厚木市観光振興計画」は、 第9次厚木市総合計画「あつぎ 元気プラン」における「快適政策 にぎわいあふれる、快適で利便 性の高いまちづくり」の推進を基 本として策定します。

また、市が策定した次の関連 する計画等と連携した計画とし ます。



4 計画期間【本編P3】

計画期間は、「あつぎ元気プラン」との整合性を図り、平成29年度から32年度までの4年間とします。

	H28	H29	H30	H31	H32
あつぎ元気プラン					
厚木市観光振興計画					

5 厚木市観光振興計画の実施状況【本編P3】

本市では、現行計画の3つの戦略と7つの柱を踏まえ、観光事業者、観光関連団体、企業や 商店街等と連携して、計画に位置付けた具体的施策に基づき、地域の魅力の情報発信、観光へ の市民参加の促進、広域観光拠点としての可能性の追求などに取り組み、その結果、観光客数 の増加や観光客消費額が増額するなど、一定の成果を上げてまいりました。

平成 27 年の成果(実績)数値と目標数値を比較すると、観光客数・宿泊者数は、ほぼ目標を達成しており、観光客消費額は目標値を上回っております。

【目標値】

指標名	平成 24 年(実績)	平成 27 年	平成 32 年
観光客数	3, 247, 751人	3, 420, 000人	4, 500, 000人
宿泊客数	340, 181人	343, 700人	352, 000人
観光客消費額	122億円	140億円	170億円

【成果数值】

指標名	平成 24 年(実績)	平成 27 年	達成率
観光客数	3, 247, 751人	3, 387, 190人	99. 0%
宿泊客数	340, 181人	341, 733人	99. 1%
観光客消費額	122億円	約156億円	111. 4%

本市の観光を取り巻く現状と課題

6 本市の観光を取り巻く現状【本編P10~38】

1 観光を取り巻く社会経済環境の変化

平成 25 年に訪日外国人旅行者が 1,000 万人を突破し、2020 年に東京オリンピック・パラリンピ ック開催が決まるなど、観光を巡る情勢は大きく変化しています。更に訪日外国人旅行者が今年 (平成28年)2,000万人を突破するなど、観光先進国の実現に向けて政府一丸、官民一体となった 取組が進められています。

- 2 国・県・市の観光政策の動向
 - 【 国 】明日の日本を支える観光ビジョン

3つの視点と10の改革を掲げ、『世界が訪れたくなる日本』を目指した取組を実施しています。

【 県 】神奈川県観光振興計画

「行ってみたい、住んでみたい、人を惹きつける魅力あふれる神奈川」を将来像とし、観光振興 に取り組んでいます。

- 【本市】第9次厚木市総合計画あつぎ元気プラン/厚木市まち・ひと・しごと創生総合戦略等にお いて、観光のまち実現に取り組んでいます。
- 3 本市の観光の現状及び動向

【観光資源】

大山などからなる丹沢山塊、その山裾の温泉、相模川など恵まれた自然資源/ハイキング、森林 セラピーなどヘルスツーリズム/農業体験、観光農園などグリーンツーリズム/まつり・イベント、 食など

【入込観光客数等】

- ○入込観光客数は 300 万人台前半で推移。うち日帰り客が9割、宿泊客は1割。月別では8月が約3割。
- ○あつぎ鮎まつりが約 70 万人、次いで相模川 52.6 万人、飯山 45.4 万人、七沢 41.1 万人
- ○直近5年間では、かながわグルメフェスタが約3倍の入込客数
- ○観光消費額はアップして 150 億円台で推移。うち飲食費が5割近い

7 調査に見る本市の現状【本編P39~45】

既実施の〈市民意識調査〉・〈市民満足度調査〉のほか、〈Web アンケート調査〉・〈外国人観光モニ ター調査〉・〈関係団体ヒアリング調査〉を実施。相対的に、本市の認知度は高いものの、観光資源 に関心を寄せる人が少ない。

8 本市の観光に関する課題【本編P46~53】

- 1 自然体験の機会や場づくり/高まる自然学習や自然体験ニーズへの対応
- 2 厚木を楽しむ仕掛けづくり/テーマ設定による地域資源のシナリオ化、回遊性
- 3 **訪れやすく滞在を楽しめる環境整備**/気持ちよく、多くの人が訪れやすく滞在を楽しめる環境整備
- 4 厚木を楽しんでもらう観光情報の発信/情報発信への積極的な取り組み
- 5 観光まちづくりへの観光戦略/観光プロモーションを総合的に行う組織の検討
- 6 広域観光の拠点/他の市町と連携した広域観光の推進
- 7 **外国人観光客への対応**/Wi-Fi 導入やサイン設置など受入環境の整備
- 8 地域の観光産業を担う人材の確保と育成/サービス向上等を目指した観光人材の育成

9 計画改定の基本方針と目標値【本編P54~55】

1 改定の基本方針

本市の観光を取り巻く環境変化に対応した計画の実効性を確保するため、5つの重点的視 点に沿って、具体的施策を展開します。

- (1) 鮎や河川を通じた観光振興
- (2) 効果的な情報発信の推進
- (3) (一社)厚木市観光協会の事業拡充
- (4) 広域連携による観光推進
- (5) 外国人観光客受入体制の強化
- 2 観光振興の基本目標とキャッチフレーズ
 - ア 基本目標:「自然」と「都会」をつなぐ都市(まち)
 - イ キャッチフレーズ: 行こう、遊ぼう 山と川のある都市(まち)あつぎ

情報発信

あつぎを楽しむ人へ 自然と都市をつなぐ観光資源の再編さん

- 2 観光客の実態把握の推進

基本方向: 3つの戦略と7つの柱

内なる醸成

あつぎに暮らす人へ 観光への市民参加の促進 観光まちづくりのための多様な場面設定

あつぎとつなぐ人へ 広域観光の拠点としての可能性の追求

外との連携

国際観光の取組強化

3 達成すべき計画の目標値

指標名	現状値 (平成27年)	目標値(平成32年)
観光客数	3, 387, 190人	4, 500, 000人
宿泊客数	341, 733人	352, 000人
観光客消費額	約156億円	約170億円

厚木市観光振興計画体系(案)

の戦略	7つの柱	施策の方向	※「*」印は新規施策、網掛けは重点施策 具体的施策 網掛けの色は5つの重点的視点の色と対応しています
	柱 1)自然と都市(都会)をつなぐ観 光資源の再編さん	1 厚木市全体「レジャータウン」 づくりの展開 ~厚木を訪れる人に、まち全体	ア 観光まちづくりの推進/イ ユニバーサルデザインの推進/ウ おもてなし運動の推進
		を楽しんでもらえる取組~ (2)豊かな自然をいかした ツーリズムの推進	ア サイクリング観光の推進*/イ グリーンツーリズムの推進/ウ グリーンツーリズム観光商品の開発 エ 農業体験の場の整備/オ グリーンツーリズム受入整備事業/カ ヘルスツーリズムの推進
【情報発信】あつぎを楽 の第一戦略		(3) 鮎や河川の活用を通じた 観光振興	ア 河川活用の団体との水辺環境づくりの協働事業/イ 河川敷のバーベキュー場としての活用*ウ 鮎のつかみどりや魚釣り教室の実施*
		2 厚木市全体「自分たちの庭」 づくりの展開 ~厚木に暮らす人が、まち全	ア あつぎ食ブランドによる市のイメージアップ / イ 川魚(鮎)を始めとした地場産品の活用*ウ 鮎料理取扱い店舗のPR*
		体を楽しめる空間づくりを目指	ア「厚木のいいとコロ」発信事業*/イ「森林セラピー体験」、「健康づくり大学」の実施ウ「花の里」づくりの推進
略 	柱2)観光客の実態把握の推進		ア 入込観光客調査の充実/イ 観光モニターツアーの実施
		1 インターネット等の活用	ア SNSやインターネットなどICTの活用/イ モバイルサイトの有効活用/ウ インターネットの活用 ほか
	柱3)ターゲットを絞った 情報発信力の強化	2 メディアの積極的な活用	ア タイムリーな情報提供によるパブリシティの活用/イ あつぎビジョンやケーブルテレビなどの活用 ウ 情報誌などへの積極的な情報リリース
	旧北元はソツ出し	3 地元からのアナログ情報の発信	ア「あゆコロちゃんクラブ」会員による発信/イ 大使などの活用
<u>_</u>		4 観光のブランドイメージづくり	ア 厚木観光のブランド化の推進/イ「七沢エリア」ブランド化の推進/ウ 「飯山エリア」ブランド化の推進
	柱4)観光への市民参加の推進	1 市民による観光まちづくりの取組	ア あつぎ観光ガイドの育成*/イ 自治会との連携/ウ 既存イベントへの市民参加の促進 エ 新しい市民参加スタイルの提示/カ 市民の清掃活動、学校等での環境教育の取組
【内なる醸成		2 企業等との協働による観光推進	ア 企業の観光まちづくりへの参加/イ 生活支援ロボットの観光資源活用 ウ 地域活性化包括協定や観光協定を通じた情報発信 エ 大型バス観光客への対応とバス駐車場の確保*/オ 飲食店や物販店との連携事業の展開
◎ 第 第		3 若者の視点による観光推進	ア 若者による魅力発信/イ 学生合宿の誘致促進
三戦		1 厚木市民が郷土を学び楽しむ仕掛けづくり 〜郷土への愛着や誇りを育成〜	ア 観光・歴史・文化の学習機会の提供/イ 小中学生への郷土教育の推進 ウ イベントの回遊性を高める効果的な開催/エ シンポジウムや講座、広報紙を通じた郷土の再発見 オ 「大山街道」再発見プロジェクト/カ 厚木版「札所めぐり」の創設
	柱 5)観光まちづくりのための多様な 場面設定	2 市民による「文化芸術のまちあつぎ」づくり への取組	ア 市民利用施設の利用促進/イ ガイドブックの発行/ウ フィルムコミッション事業の推進エ「ストリートパフォーマンス」の創出/オ 文化芸術活動の支援
		3 (一社)厚木市観光協会の事業拡充等	ア 旅行事業者と連携した修学旅行の誘致及びツアーの企画*/イ 大型バス駐車場の確保* ウ 関係機関との連携強化/エ 収益事業の強化による財務体制の強化*/オ 日本版 DMO候補法人についてのわれる。 カ 「厚木市観光振興条例」及び「厚木市観光振興計画」の推進/キ 観光振興推進委員会の活動推進
	柱6)広域観光の拠点としての可能性 を追求	1 広域連携による観光推進 ~厚木を広域観光拠点にする取組~	ア 新たな観光の核候補地(第4の国際観光地)としての大山地域の観光振興*/ イ 県央やまなみ地域等の魅力発進による観光客の誘客/ウ 大山巡礼トレイルツアーの実施や積極的なPR/ エ 交流拠点としてのパーキングエリアにおける丹沢・大山地域のPRの強化/オ 本厚木駅連絡所の機能充実
9 第	と足小	2 交通機関(電車、バス、タクシーなど) との連携事業	ア 丹沢・大山地域からのハイカー誘客の方策の検討*/イ 交通機関と連携したキャンペーン・イベントウ 駅施設や電車での観光ポスターや中吊り広告の活用/エ 高速道路サービスエリアでの観光キャンペー
「小」の車隻」あつぎょうなぐ 〇第三戦略 はたい。 柱	柱7)国際観光の取組強化	1 外国人観光客への対応強化	ア 立地をいかした誘客/イ 事前キャンプ地の誘致と外国人観光客に対する受入体制の整備*/ウ 外国語での観光情報の発信エ パンフレットや店舗看板等の多言語化/オ 神奈川県と連携した外国人観光客を対象としたツアーの商品化*/カ 宿泊施設の受入体制の整備*/キ 観光客への観光案内の実施/ク 温泉文化発信事業の推進
		2 他地域との友好交流事業の推進	ア 友好都市との交流強化/イ 歴史文化にちなんだ交流事業の推進
		3 シティセールス活動による発信 3	ア 内外へのシティセールスの展開/イ 行政視察の積極的な受入